

## 霊峰高千穂の峰

in Miyazaki Pref. /Mt. Takachiho

Copyright(C) by Taizan 1996-2010

E-mail to Taizan ; taizan@gainendesign.com

[『泰山の古代遺跡探訪記』Topページ](#)※[概念デザイン研究所FaceBook](#)※[サイトオーナー泰山こと山口泰幸FaceBook](#)※[ご連絡用メール ; taizan@gainendesign.com](mailto:taizan@gainendesign.com)※[概念デザイン研究所ホームページ](#)※[泰山の古代遺跡探訪記ホームページ](#)

鹿児島県の加世田市を法事で訪れた後に、ふと思い立って鹿児島空港からレンタカーを借り、九州秀逸の霊峰高千穂の峰に向かいました。勿論、途中の霧島温泉郷にちゃんと寄り道をしながら…

鹿児島の南国風の空気と打って変わって、鹿児島空港を北上し牧園辺りに入った頃から、急に森の色が濃い緑になり、空気がピンと張り詰めるのが感じられます。霧島神宮はこれで3度目。しかし今回は明らかに目的が違っていました。その目的とは霊峰高千穂の峰をもう一度しっかりとこの目で確かめておきたいということです。母智丘特集でもふれたように、昨年の後半から特に母智丘と高千穂が気になっていました。

天孫ニギノミコトが天降ったと神話に伝えられる高千穂の峰。その頂上には日本三奇の一つである天の逆矛が立っています。その雄姿はまさに山形、三輪山の三鳥居を彷彿とさせます。疑い無く霊峰高千穂の峰は九州の精神的拠点であり、この山を中心に文化形成がなされた、否、今でもなされているであろうことは容易に実感できます。霧島神宮でもらった古い鳥瞰図が如実に高千穂の位置付けを物語っています。霊峰高千穂の峰を中心に九州、あるいはもっと広範囲にピラミッドゾーンが形成していると考えられます。

母智丘、彦島シリーズでも述べたように高千穂のロケーションは明らかに他のピラミッド群と関連を持っていると考えられますが、今回、実感としてその存在意義を確認できました。圧巻は高千穂牧場で出現した虹の御神門です。このシリーズは音楽と写真を中心に お伝えします。時間をかけてじっくりとお楽しみ下さい。（コンテンツ重視のためちょっとデータが重いですが、全てダウンロードしてからごゆっくりと。）

1999 泰山記



霧島神宮発行の高千穂鳥瞰図…いろいろなことが見えてくる。

御系譜…天祖天照大神（伊勢神宮）-天忍穗耳尊（英彦山神宮）-天孫瓊瓊杵尊（霧島神宮）  
-彦火火出見尊（鹿児島神宮）-鶴草草葺不合尊（瀬戸神宮）-神日本磐余彦尊（宮崎神宮）



霧島神宮古宮跡（鹿児島県）の鳥居と参道



高千穂河原の側にある霧島神宮古宮跡。吹きすさぶ風は厳しい…参拝というよりは“視”の場である 古宮跡後方の山は高千穂連山の御鉢。東向に見ている。二つの峰は御鉢の火口の稜線がそう見えるのだ。望遠鏡で見ると、縁に巨石が転がっていた。



高千穂を御神体としているのだろうか… 古宮跡には三つの巨石が置かれ、磐座としてある。



磐座。設置は新しい



霧島連山にある中岳（1332m）  
高千穂の峰の御鉢から西北に中岳、新燃岳、韓国岳、えびの高原と続く。



霧島神宮…その造りは比較的華やかである…南国の香りがするような…  
上の古地図で分かるように、霧島神宮自体は錦江湾、すなわち海に向かっていて、霧島神宮および高千穂の峰の御鉢だけは、鹿児島県に属する。



風景；霊峰高千穂その1



風景；霊峰高千穂その2



風景；霊峰高千穂その3



宮崎神宮の参道沿いにある“ケルン状”の積み石（左）と霧島高千穂の峰  
“写真提供猫バス堂；谷口実智代さん” Copyright (C) 1999 M. Taniguchi

2000年…この良き年に岩戸は開く！



写真に触れてみてください！

[泰山の古代遺跡探訪記top△](#)